

また遊砂地からの土砂運搬や一般道の走行は、粉塵やトラックの渋滞等を引き起こすため、地域住民からの反対も根強い。そのため、LA郡は遊砂地から一般道、及びSPSへの出入りの際に、トラックのタイヤに付着した土砂を取り除くトラックアウトプレート（Track Out Plate）の活用や（写真－5）、道路清掃車による路面清掃等を実施している。



写真－5 トラックアウトプレート
（ロサンゼルス郡提供）

5) 残土処分場

既述のとおり、LA郡には、貯水ダムや遊砂地のほか、水路から除去した土砂を廃棄するSPSが現在20カ所存在する。SPSは主に、山麓における市街地開発が進行した1950年代以降に建設され、一般的に輸送コストの抑制や輸送路沿いの粉塵の発生を避けるため、遊砂地の近隣に設置されている。受け入れ容量を確保する観点から、採石場等の跡地をSPSとして活用する場合もあるが、新たなSPSの確保に苦慮しているとのことである。

LA郡への聞き取りによると、SPSの設計及び運用に関するマニュアルは作成しておらず、地形や地質、形状などを考慮し、サイト毎の特性に応じて設計・運用を個別に実施している。

なお、遊砂地等から除去された土砂の一部は、盛土、道路建設、埋立地等に活用されている。LA郡はSPSにて処分された土砂を再利用するため、地方自治体や民間企業、個人に対して土砂をほぼ無料で引渡している。また、土砂を活用して公園の建設等を実施する場合もある。聞き取りによると、SPSへ運搬された土砂の再利用率は全体の約10%程度であり、運搬処分される土砂量の方が多いため、新たなSPSの確保が課題であるとのことである。

4. おわりに

冒頭述べたように、我が国においては近年土砂災害が相次いでおり、土砂・洪水氾濫による被害も相次いでいる。土砂・洪水氾濫への対策として遊砂地が注目されているが、今後遊砂地も含め、砂防設備の整備を推進していくにあたり、用地の確保等整備に関する諸課題の解決は当然のことながら、整備後の施設が効果を発揮できるよう、計画的に施設を維持し、管理することは非常に重要な課題である。

今後も課題解決に向け、調査・研究を通じ、砂防設備の維持管理に関する取り組みを推進してまいりたい。

「ひろば」への投稿を募集

月刊「建設」では、「ひろば」というコーナーを設け、会員に役立つ情報や会員が発信したい情報を掲載しております。詳細については下記の担当までお問い合わせください。

一般社団法人全日本建設技術協会 事業課 峯脇・黒崎
TEL：03-3585-4546／e-mail:kensetsu@zenken.com